健康の達人

Letter from Omagari-Senboku Medical Association
Master of HEALTH.

大曲仙北医師会からの便り

大曲仙北医師会ホームページ
パソコンから http://www.omagari-med.or.jp
携帯電話から http://www.omagari-med.or.jp/i/

子どもへのワクチン接種をおすすめします

髄膜炎ワクチンについて

Talk about Hib vaccine and pneumococcal conjugate vaccine

Medical Chart no.39

髄膜炎という病気を知っていますか。髄膜炎とは、脳を包んでいる膜に炎症が起きる病気です。病原体には細菌やウイルスなどがあります。

このうち、細菌性髄膜炎は亡くなることもまれではなく、後遺症を残す例も少なくない、小児にとって恐ろしい病気の一つです。小児の細菌性髄膜炎は、日本では年間約１０００人が発病しています。

小児の細菌性髄膜炎は、発病初期は発熱、頭痛、不活発、嘔吐などの症状で、風邪など軽症の病気との区別が極めて難しいのが特徴です。

けいれん、意識障害など髄膜炎を思わせる症状は少し遅れて現れます。ですから、発病初期に細菌性髄膜炎と診断することは極めて困難です。初めは風邪と思われる軽い症状であっても、発病後１～２日で死亡する電撃例もあるので注意が必要です。

細菌性髄膜炎の原因菌はさまざまですが、小児の場合、インフルエンザ菌ｂ型（冬に流行するインフルエンザとは全く別のもの）と肺炎球菌を合計すると、髄膜炎の原因菌の約75％（年間約７５０人）になります。そして、この二つの細菌にはワクチンがあり、合わせて髄膜炎ワクチンセットといいます。

ヒブワクチン

インフルエンザ菌ｂ型はＨｉｂ（ヒブ）ともいい、その予防注射をヒブワクチンと呼びます。

ヒブワクチンは、欧米では約20年前から使用されています。このワクチンを導入した国では、使用頻度が高まるとみな判で押したようにヒブによる髄膜炎が激減しています。

日本では、平成20年12月からようやく使用できるようになりましたが、任意接種のため自己負担金があり、１回７０００円ほどかかります。接種対象年齢は生後２カ月から５歳未満です。

小児用肺炎球菌ワクチン

小児用肺炎球菌ワクチンは、欧米では約10年前から使用されています。使用された国では非常に効果があることが証明されています。

日本では平成22年２月から使用できるようになりましたが、やはり任意接種であるため自己負担金があり、１回１万円弱かかります。接種対象年齢は生後２カ月から10歳未満です。

どちらのワクチンも、接種回数は接種開始年齢によって異なりますので、最寄りの小児科にご相談ください。

自己負担金がありますが、お子さんへのヒブワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンの接種をおすすめします。

大曲仙北医師会

吉村クリニック

吉村　総一 院長

大仙市戸蒔字谷地添 71-1
☎ 0187-86-0566